



2007.7.20 発行

めんたるねっと

YMSN 情報誌

(特定非営利活動法人)横浜メンタルサービスネットワーク

第13号

Vol.4 No.1



トピックス	YMSN 2007 年度ビジョン～地域の求めと共に 1
実践報告	更生施設民衆館～「あなたの自立」をサポート 2
医療の現場から	わかりやすい認知機能障害の話(その3) 5
就労の取り組み	ジョブアシスト横浜の就労移行支援事業 7
SSTの現場から	適性に合わせたプログラムを～横浜舞岡病院デイケア	... 9
	予定・報告 11

トピックス

YMSN 2007年度のビジョンは... 設立の理念を生かしつつ、地域が求めることに足を向けて...

総会が無事終了した。設立から丸6年が経過し、7年目に入ったことになる。設立を振り返り、次のビジョンを分かち合いたい。

2001年に地域で活動していた仲間が集まり、NPO法人としてスタートした。「 をやろう」ということより、こんなことがやりたい。できるだろうか... かなり抽象的なプランを携え、仲間を募り、応援をお願いした。「何だか分からないけれど... さんが目指すのだったら応援するよ」と多くの方に見守られ、設立できた。

あれから6年、抽象的なプランだったけれど、実行したかったことが今、できつつあるのを感じる。その一つが、「支援者が元気でなくちゃ!!」との思いから充実させたかった研修事業。元気になる研修ということが一番に考えてきた。もちろん、内容も大事。そこに「ワクワクするやる気と元気、やさしい気持ちでいられるゆとり」も。そんな感想が得られる内容の研修会をたくさん開催して、大勢の方たちに体験してほしかった。何度も失敗して、何度も反省して、多分今年度は、皆さんに良いものを提供できるようになっている(2007年度研修案内参照)。うれしいことに法人設立以前から続けてきたSST研修会には毎回60人程の方が参加されている。神奈川、東京、遠くは千葉、茨城、山梨県から参加される方も多い、勿論、すてきな講師陣が多く顔をそろえる研修会はここにしかないことも大きい。

もう一つは、精神科を利用される方への就労支援。地域作業所ではやりきれなかった活動が思いっきりできた。国の労働施策改正に伴う情報をインターネットのおかげで素早くキャッチできたのも運が良かったのか、私たちにやらせたかったのか... ジョブコーチ・委託訓練・企業との連携、就労支援の真っ只中に身をおくことになった(余談だが、私たちとお付き合いするようになった企業が、ここに来て業績を伸ばしているのは不思議だ)。そして就労支援を担うスタッフを雇用し、ボランティア団体ではない責任ある事業を担うことになった。就労支援についての研修会でYMSNの実践を話す機会も増え、認知もボチボチされてきた。もう少し就労支援の現場に身を置き、一歩先を行くYMSN型就労支援を全国に知らせたいと思う。そこで今年度は横浜市か神奈川県就労支援施策の一員にならせてもらおうと考えている(しかしNPO法人であるが故のバックアップ体制の脆弱さが、次の段階の妨げにもなっているらしい)。

設立当初からの目的と事業の5つの柱を理念に、地域が求めることに歩を共にしていくのは今年度も変わらない。応援してくれる会員の皆様とともに「既存にはない、でも今必要な支援を実現するために」今年度も活動を続ける。そして将来、NPO法人が運営するクリニックも夢見てもよいかしら...

冒頭からフワフワした文章に付き合ってください感謝します。次のページからは引き締まったワクワクできる原稿になります。

(YMSN理事 鈴木弘美)

更生施設民衆館

- その歴史と実践 -

民衆館指導員 三宅 誠

1. 更生施設とは

「更生施設」と言うと聞きなれないかもしれませんが、民衆館は身体上または精神上の理由により指導援助を必要とする要保護者に対して生活扶助を行うことを目的とした生活保護法にもとづく入所型施設です。民衆館は更生施設ですので、心の病を持った方やアルコール依存症の方など様々な理由により生活保護を受けている方が入所してきます。私たち職員はそういった方々がスムーズに社会復帰できるよう支援しています。

2. 民衆館の歴史

民衆館の運営は「社会福祉法人横浜愛隣会」が行っています。

当法人は、大正 13 年に南区浦舟町にて簡易宿泊所「救世軍民衆館」を設立しました。我が国にとって代表的とも言える不況時に失業者、生活困窮者のための宿泊所を運営したものがその前身となります。

戦中戦後の混乱期を経て昭和 33 年より「財団法人 神奈川県愛隣会」としてもっぱら低所得者の援護に力を注いでまいりましたが、宿泊施設の利用が単に経済的理由のみでなく、精神的、身体的な障害あるいは高齢化をその主因とするようになり、処遇の向上、生活指導の必要性から昭和 58 年に「社会福祉法人 横浜愛隣会」として認可を受け、生活保護法の更生施設「民衆館」の運営を始め、

平成 16 年 12 月には創立 80 周年を迎え現在に至っています。



3. 民衆館の処遇

民衆館を利用する方のうち精神障がい者（アルコール依存症者を含む）が入所者全体の 60 パーセントを超え、年間を通すと 80 パーセントに近い数字となっています。このような現状から、指導員に精神保健福祉士有資格者 4 名を配し、規則正しい生活を送れる環境を推奨する一方、利用者個々人の意向の尊重に努め、意欲の向上に力を注いでいます。

具体的には社会復帰、自立へ向けて館内作

業訓練の充実を図り、実施機関である福祉事務所や通院先の病院との連携や合同カンファレンスを実施しています。利用する方の状況によって地域作業所、病院デイケア、アルコール関連施設やハローワークといった社会資源活用への援助を行います。入所施設ですので、緊急時には24時間態勢での援助が可能です。

レクリエーションとして一泊旅行、日帰り旅行、ボウリング大会、ナイター観戦、映画鑑賞、食事会なども定期的を実施しています。その他にも毎月、誕生会や体育系・文科系クラブ活動、衣類買い物や利用している方と幅広い内容を話し合うミーティングを行っています。

また、平成15年度より「保護施設通所事業」を実施、これはアパートにて単身生活する自立者の「心身の障害・不安」や「社会的孤独・孤立」といった貧窮以外の複合する問題の解決、緩和の窓口として実施しているものですが、地域におけるセーフティネット機能の充実にも繋がりたいと思っています。

この事業には、日中民衆館に通所し施設のプログラムに沿って過ごす「通所事業」と、原則として月1回、アパート等を訪問させていただき生活相談を行っていく「訪問事業」があります。

ジョブコーチの実施

民衆館ではこれまでに5パターンのジョブコーチを実施し、現在でも4パターンを継続しています。ジョブコーチについては横浜メンタルサービスネットワークからの協力も大きく、連携を深めさせていた

だいております。

内容は一般企業への就労から近隣社団法人施設への清掃作業、短期アルバイト的な訓練など様々です。

民衆館は勤務都合上、当事者に常時付き添いをするタイプのジョブコーチを専門に行うことができないので、さまざまな工夫をしています。

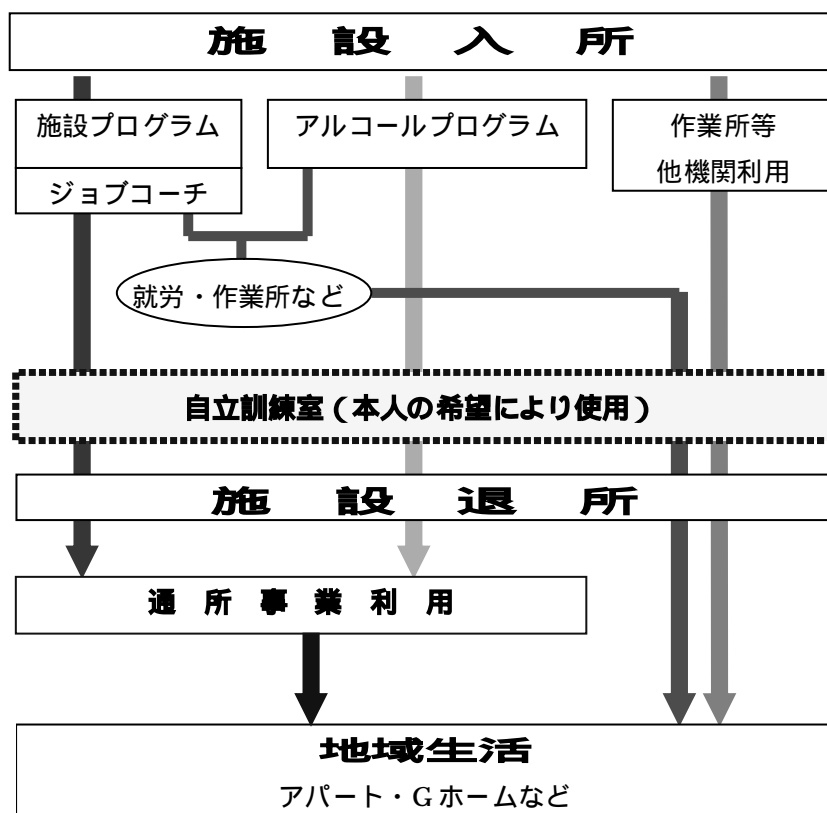
1. 初期や変化のあるときなど重要な時に重点的に同行などを行うことで効率を上げています。
2. 通所者は自身の携帯電話を使い、入所者にも出勤時は施設の携帯電話を所持してもらい、連絡をこまめにとるようにしています。
3. 連絡事項はできるだけ書面にし、仕事内容のマニュアル化を行い当事者と情報を共有化します。変更があった際は相手会社、本人、民衆館が一斉に確認できる環境を作るようにします。
4. 本人へのアプローチだけでなく雇い主である会社や職場への働きかけを行うことで、本人をサポートしています。

企業に対して、施設サポートがあることをアピールしますが、同時に協力も依頼します。更生施設の枠内でできるかぎりのジョブコーチ活動を行っていきたいと思っています。

4. 最後に

近年の施設を利用する方の疾病は単に精神障がい・知的障がい、単にアルコール依存症というわけではなく、人格障がい・アスペルガー症候群や高次機能障がい、軽度脳梗塞後遺症など

処遇の流れの概略図



福祉サービスを活用しにくいものが増えてい
ます。その中で更生施設としての役割を果たしてゆ
く難しさに直面しているのが実情です。と同時に、
更生施設は未だ「措置」でありながら、実際には
選ばれる施設でなければ生き残れないので、利用
する方の自立心を損なわせることなく、どれだけ
の充実したサービスを展開できるかも課題の一
つです。

私は、これらの山積した問題に立ち向かうにあ
たり福祉に携わる人たちが手を取り合い、連携し
てゆくことが最初に見える第一歩と考えます。互
いに知り合い、互いに利用し合わなければ対応で
きない状況が増えているのは皆一緒ではないで

しょうか。今回、このような場をお借りして更生
施設「民衆館」の紹介をさせていただいたことは、
こういった意味からも大変有意義であり、感謝い
たします。

ありがとうございました。

(民 衆 館 ホ ー ム ペ ー ジ)

<http://www18.ocn.ne.jp/~minsyu/>

わかりやすい認知機能障害の話（その3）

～ 認知機能障害を理解する～

田園調布学園大学 へのまつかつよ
舩松克代

私事ですが、4月より臨床から教育現場に職替えしました。そのような関係で多忙を極め、一回シリーズをお休みさせていただきました。忘却の彼方にいる方もいらっしゃるかと思いますので、前回のおさらいから始めましょう。

前回までは認知機能障害のお話と昨年私が受けた「認知機能リハビリテーション」のお話をしました。認知機能障害は社会生活に様々な影響を及ぼし、その改善が薬物療法でもリハビリテーションの分野でも注目されているという内容でした。

2006年7月26日帝京大学医学部で Susan McGurk 先生の6時間ワークショップが開かれ、「精神障害者への認知機能リハビリテーションと援助付き雇用」というタイトルのお話がありました。

就労を目前にして認知機能リハビリテーションを受ける人は、日本でいえば精神保健センターのような施設で職業前リハビリテーションを受けています。援助付き雇用を想定し、その職場の中で必要なスキルをトレーニングするというものです。コンピューターによる認知機能トレーニングと実際の生活場面での訓練が組み合わせられています。

プログラムではまずアセスメントを十分にを行い、どのような場面で認知機能障害が見られるか、個々の特性を把握し、プログラムに対する動機付けをするところから始まります。そしてコンピューターによる認知機能トレーニング、仕事探し計



画、仕事の維持のための面接と支援が行われます。

コンピューターによる認知機能訓練は12週24セッションが実施され、言語、記憶、注意、実行機能、運動、視空間の6分野が訓練されます。6セッションで一通りの認知機能がトレーニングされ、その後は繰り返し行われるわけです。実際に Susan 先生が行っているパソコンを使ったりリハビリテーションを、私も被験者としてトライさせていただきました。このパッケージは「CogPack」といって市販されているソフトウェアのようですが、今はやりの脳トレに似たようなものとイメージしていただければいいかなと思います。

私が試したのは注意機能トレーニングでしたが、パソコンの画面に短いお話が映像で流れます。注意深く見てくださいと言われ、今度また同じような映像を見るのですが、もし前に見た映像と違う部分があったらそれを指摘してくださいというものでした。実際には夜空の星の数が違っていたり、

お店の看板が違っていたりとかかなり細かな部分の相違点があり、高度な注意機能が求められるものでした。個人のレベルによって難易度は違って、これができたら次というように、無理なく学習できるように課題は設定されています。ですからゲーム感覚で行え、私自身もパソコンゲームをよくやるので楽しんで出来ました。

これはトレーニングにもなりますが、行っていくうちに人によって、苦手な認知機能がわかり、その後は代償行動を学ぶトレーニングに進みます。つまり障害をカバーしながら作業を進める訓練が行われているわけです。たとえば注意機能を高めながら作業を行う方法として「手順を声に出しながら作業を行う」、または作業過程を細かく分けてから実施するなど「戦略的指導」と呼ばれる方法で訓練されています。

また計画の立案や問題解決の方法など様々な場面を想定し繰り返しトレーニングを受けるわけです。だいたいこのプログラムは3カ月から6カ月の期間行われます。同時にコンピューターによる課題練習も行われています。週2回3カ月の認知機能トレーニングが実施され、パソコンが貸し出され、自宅でも学習が継続されるようになっていきます。

Susan先生はニューヨークのブルックリンという地区でこのプログラムを実施しています。無作為割り付け研究も行っており、認知機能トレーニングと援助付き雇用群と援助付き雇用群で比較研究を行っています。精神症状と各種認知機能検査を行い職業天気の評価をしています。対象は精神疾患を持つ人たちで、77%が統合失調症でした。その結果、認知機能では言語性記憶は両群でも上昇していましたが、特に認知機能トレーニングを

行った群のほうが上昇率が良好でした。問題解決や処理速度を見る検査では援助付き雇用のみ群では横ばいでありましたが、認知機能トレーニングを行った群でははるかに3カ月後の処理速度が速くなっている結果でした。

認知機能トレーニングを行った群では、援助付き雇用のみ群に比べて長時間にわたって仕事できており、より多くの収入が得られていたという結果が示されていました。

以上の結果からも認知機能トレーニングを合わせて職業訓練を行う有用性が示唆されたといえます。

この詳細は次の論文で読むことができます。

Susan R.MuGurk, Kim T.Mueser, Alysia Pascaris: Cognitive Training and Supported Employment for Persons with Severe Mental Illness: One-Year Results From a Randomized Controlled Trial. *Schizophrenia Bulletin* 31(4):898-909, 2005

以上3回シリーズで認知機能の話をお送りいたしました。日本では注目は受けているものの、まだまだ認知機能トレーニングが精神科リハビリテーションの中に多くとり入れられているとは言えない現状があります。しかし日本のリハビリテーションの歴史の中では、脳損傷や高次脳機能障害の分野で多くの認知リハビリが行われており、その中からヒントを得ることができます。

何もパソコンを使わなくても十分できることも多いのです。まずは認知機能を理解し、さらに周りの人たちをアセスメントし直してみるところから始められていかがでしょう。

ジョブアシスト横浜を訪ねて 就労移行支援事業に取り組む実践現場

この4月より自立支援法による就労移行支援事業・就労継続支援非雇用型の多機能型施設に移行した、横浜市保土ヶ谷区のジョブアシスト横浜・ワークショップメンバーズを訪ねました。自立支援法による施設への移行は迷われている施設が多いなか、先頭に立って施設体系を変更した法人です。運営母体は横浜市精神障害者地域作業所連絡会（市精連・10月よりNPO 横浜精神障がい者就労支援事業会=SSJ=に母体変更）です。

訪問したのは7月初め、まだ3カ月しかたっていない中でのインタビューになりました。この日は施設長の星野順平さんが対応してくださいました。

ジョブアシスト横浜は2005年、就労支援を中心にした事業を取り入れる施設として開所しました。当時の補助金制度体系から作業所として登録し活動していました。このときから自立支援法を見据えての開所だったようです。この4月の移行に関しては、事業所独自に情報収集し、当事者へのメリット・デメリットを整理する中で迷いながらの決断だったようです。

それだけ、自立支援法の施行は当事者にとっても障がい者支援に従事する者にとっても手をたたくて喜んでいられる事柄ばかりではなかったのです。この3カ月の中で今実感しているようでした。

就労移行・就労継続支援非雇用型という多機能型施設での態勢は、利用者45人（ジョブアシスト横浜19人、ワークショップメンバーズ26人）、



管理者1人、サービス管理責任者1人、就労支援員1人、職業指導員2人+非常勤2人、生活支援員3人+非常勤1人です。

日常活動プログラムに目を向けると、就労継続支援非雇用型ワークショップメンバーズでは、内職作業を中心に施設内で作業をし、工賃収入を得ながら、長い目標のなかで次のステップを目指している利用者が中心です。

就労移行支援事業を実施しているジョブアシスト横浜は、利用者の就労に向けての支援を段階的に実施することを活動の柱とし、特に運営の中心になるのは就労実習であり、施設内活動を用いた印刷製本、カフェ調理・接客、内職、清掃施設外活動としての公園管理業務、病院外構清掃業務 企業での実習 - 3通りを用意しています。利用者にはこれらをうまく組み合わせた支援計画を提示しながら、就労に向けて力をつけてもらうことになっているそうです。

とはいえ、自立支援法には、「自立のためのサービス提供事業所」と「サービス利用者」という

明確な区別があるので、サービス提供している側は、利用者から利用料をもらわなければならないという仕組みになっています。ジョブアシスト横浜ではこの仕組みが、以前から利用されている人にとって「同じサービスを受けているになぜ？」という疑問と重なってか、結果としてこの施設を利用される人数が減っている事実があります。

このことを星野さんはとても悲しそうにしていました。「利用者へ請求書を渡すときが一番心苦しかった。利用料撤廃については今後行政へ訴え続けたいと思っている」と話されました。「一方で、実績の積み上げとサービスの質の向上を目指して努力していきたい。その目玉が企業実習です」と語っています。

今後の課題としては、「地域にある他機関と連携し、有効的な利用をしあうこと。そのために連絡会などを開催し、情報交換することが役に立つと思う」と述べ、すでに横浜市内の各機関とも上手に連携し、実績を上げているそうです。例えば、就労支援センターぱーとなー *注で相談・評価を受けた方が、一定期間の就労準備が必要という課題をもってジョブアシストを利用される、とか就労準備を一定期間経過した方が、YMSNの仲介で企業へ雇用される、という実績が上がっています。インタビューに答えてくれた利用者さんは、ぱーとなーに相談に行き、短期準備訓練ということで、地域作業所を3カ月利用され、次にワークショップメンバーズに移動し、4月からジョブアシスト横浜に移ったという方です。ご自身で、「就労したい、と相談に行ったけど、すぐの就職は内心不安だった。次のステップからまた次のステップへ



と段階的に取り組めて、自分のペースもつかみながら就労に向けていると実感している。ぱーとなーに相談に行かなかったら、一人での就職活動になる。結果的にこうはうまくいかなかったと思う」と話してくれました。まさに、地域のネットワークが活用されたケースです。「目標は、企業には障がいを知ってもらい無理せず、できれば年金を受給せずに生活できるようになると良いと思っている」

最後に星野さんは、「スタートしたばかりの今は、とにかく実績作りです。多少の負担は覚悟で精一杯の支援をしますのでぜひご利用ください」と熱く語っていました。

(YMSN 鈴木弘美)

*注

横浜市精神障害者就労支援センター「ぱーとなー」
YMSN 情報誌「めんたるねっと」第10号で紹介

横浜舞岡病院デイケアの取り組み

～ 個々の適性にあわせてS S Tグループを選択 ～

今回は、医療法人積愛会横浜舞岡病院（横浜市戸塚区）精神科デイケアでのS S T（社会生活技能訓練）実践の報告です。

7月2日（月）に、横浜舞岡病院のデイケアのS S Tを見学し、デイケアのスタッフ木村幸代さんと心理士の成瀬康浩さんにお話を伺いました。

横浜舞岡病院デイケアでは数年前からS S Tの導入を積極的に行ってきましたが、2007年4月より週3回、それぞれ異なるメニューのS S Tプログラムをデイケア利用者に提供しており、具体的には以下のように組まれています。

月曜日 11:00～11:50 話し方教室

デイケア利用が数カ月以上経過した方を対象に、日常生活や診療場面などで生じる様々なコミュニケーション上の課題について「ステップ・バイ・ステップ」の技法を使い行っています。グループはクローズです。

火曜日 13:00～13:45 フレッシュクラブ

デイケア参加がまだ間もない方（1～2カ月程度）を対象に挨拶や日常会話など基本会話モジュールを使い行っています。グループはクローズです。

水曜日 10:00～10:45 話し方教室

デイケア利用が数カ月以上経過した方を対象に日常生活や診療場面などで生じる様々なコミュニケーション上の課題について、基本訓練モデルを使っています。またこの日はオープン参加になっています。

今回見学させていただいたのは、の「ステップ・バイ・ステップ」の技法を使ったS S Tです。

4月から始めて2グループ目ということです。

このグループは希望者を募って、初回の集まりでアンケートをとり、個人の練習したいことを抽出しグループ化したということです（アンケートの内容によりスタッフで検討し、結果的にのフレッシュクラブを勧めた人もいたということです）。

木村さんによれば「せっかく参加するのならその人の適性に合わせたグループへの参加を勧め選択できることがよいのではないかと様々なS S Tのプログラムを準備しました」ということです。

さて、この日の参加者は5人（一人欠席のため）、スタッフはリーダーの成瀬さん、コリーダーは木村さんです。成瀬さんはS S Tのリーダーは今回が初めてということでした。

S S Tの中身に入る前に先ずグループ目標や本日の課題を確認しました。グループ目標は、「**気乗りしない頼みごとや勧誘をうまく断ろう**」というものです。

本日の課題は「**相手の言うことに耳を傾ける**」です。次にこのグループのルールを伝えます。なるべく出席する この場のことは外では話さない の2点です。そして本日のS S Tの練習内容に移りました。

先ずリーダーが進め方を説明し、次にスキルのステップを確認。その後モデリングを行い、話し手と聞き手の役割を説明します。説明した後で、参加者が見なければならぬモデリングはどちらであるか？ がわかっているか確認します。

話題は食堂のカレーです（身近な話題で非常に

コンパクトにまとまっていた)。モデリング後ステップを踏んでいたことや相づちや繰り返しの言葉を参加者と一緒にふりかえりました。

そして参加者のロールプレイ。最初に男性二人が行いました。話し手、聞き手の役割を決め、見ている人が誰を見なければならないのかをリーダーが質問してから始めます。同じカレーの話題ですが、話し手も聞き手もスムーズで、ステップもきちんと踏んで行うことができました。

次に役割を交代しながら全員が練習します。また女性二人が練習した場面では、一人はSSTに参加するのはこの日が初めての方で会話の始めの方で少し戸惑いがみられました。コリーダーの木村さんがすぐにそばに近寄り具体的なことばの促しを行うことで続けることができました。また聞き手の役割の方は、うなずきはよくできていたのですが、繰り返しの言葉は難しい様子でした。そこでもう一度、繰り返しの部分をスタッフがモデリングを行い説明します。その時、最初に行った本人の言葉の返し方と、スタッフのモデリングを比較して違う点を明らかにしながら繰り返しの部分を強く印象付けるようにしていました。このモデリングのあと、本人が「わかりました」というところでもう一度練習し、スムーズに繰り返しの部分を行うことができました。

一通り参加者の練習が終わったところで、最後にスタッフから今日の練習の意味「うまく断るためには、うまく聞けないと断れない」と、聞くことの大切さをきちんと聞けていない場面のモデリングを加えながら説明します。

終了後参加者の男性メンバーに見学者の私が「ロールプレイがとてもスムーズで感心した」ことを伝えると「以前もSSTに参加したことがある」ということでした。週に3種類組まれていると、1回終了しても意欲があればそれだけで終わらず続けて他のグループにもチャレンジできるわけです。

スタッフはその後振り返りを行います。今回このグループを始めるあたりグループ目標を立て、カリキュラムを組むのに1週間ほど時間をかけスタッフが意見を出し合ったとのことですが、スタッフの打ち合わせも含め、SSTのリーダーを育て増やしSSTのメニューをもっと増やしていきたいという木村さんの熱意が伝わってくる時間でもありました。

(YMSN 森川充子)

家族支援セミナー

日 時：2007年8月25日(土) Pm1:30 ~ Pm4:00

場 所：横浜市総合保健医療センター 4階 講堂

横浜市営地下鉄・JR線「新横浜駅」(徒歩15分)

話す人：武岡 孝 氏 (杉並SST交流会)

(杉並SST交流会ピアサポーターの有志)

費 用：1,000円(当日会場でお支払いください)

内 容：お話と杉並SST交流会ピアサポーターの有志によるSSTライブ

問い合わせ:横浜メンタルサービスネットワーク FAX:045-841-2189 mail:ymsn@forest-1.com

お気軽にご参加ください。またお誘い合わせください。

研修会のお知らせ

精神保健福祉研修会	参加費 1回	500円 (年間 4,000円)
日 時 :	毎月第2金曜日(12月休会 全11回) pm. 7:00~8:30	
場 所 :	ひまわりの郷 横浜市港南区 上大岡オフィスタワー4階	
内 容 :	ホームページをご覧ください http://forest-1.com/ymsn/	
S S T (生活技能訓練)研修会	参加費 1回	1,000円 (年間 7,000円)
日 時 :	毎月第3木曜日(8月・12月休会 全10回) pm. 7:00~9:00	
場 所 :	横浜市総合保健医療センター 講堂 研修室	
全体会 :	理論を学ぶ 精神障がい構造論・認知機能障がいについて	
分科会 :	A.リーダー体験初級コース B.リーダー体験経験者コース C.ベラック初級コース D.ステップ・バイ・ステップ初級コース E.家族 SST(19:00~20:00)	

当事者のためのグループ活動のお知らせ

詳細は各支援センターへお尋ねください

就労講座	港南区生活支援センター	毎月第3木曜日(原則) pm. 2:00~3:00
就労フォローアップミーティング	港南区生活支援センター	毎月第1土曜日 pm. 2:30~3:30
	神奈川区生活支援センター	毎月第4日曜日 pm. 2:00~3:00
	Y M S N	O B 会の開催 職場適応 S S T 実施
S S T	港南区生活支援センター	毎月第3土曜日 pm. 2:00~3:00

電話相談

毎週木曜日(1回/週) 10:00~15:30
相談専用電話 045-841-8294

会員について

会員を募集します。Y M S N の活動を応援していただける方は会員になってください。(会費 正会員年間 5,000円)
会員は、研修会(上記案内)への年間参加費が割引になります。
精神保健福祉研修会(1,000円) S S T 研修会(3,500円)
会員へは、情報誌が無料配付されます。

正会員 5,000円(個人) 賛助会員 12,000円(団体)
(正会員・賛助会員には Y M S N 情報誌を無料配付)
振込先: 郵便振替口座 00250-6-71607
横浜メンタルサービスネットワーク

季刊 Y M S N 情報誌 Vol.4 No.1

めんたるねっと 2007 第 13 号 2007 年 7 月 20 日発行
間購読料 1,000円(年 4 回発行) 1 冊頒価 300円

発行: N P O 法人 横浜メンタルサービスネットワーク
理事長 武井昭代 編集代表 森川充子
〒233-0001 横浜市港南区上大岡東 2-42-4
TEL 045-841-2179
FAX 045-841-2189
<http://forest-1.com/ymsn/>
e-mail: ymsn@forest-1.com

印刷: 横浜市総合保健医療財団
精神障がい者授産施設 港風舎印刷